

—
人生の知恵の本棚

「自分にしかできないこと」 の見つけ方

剣道部の君へ。そして、今を一生懸命やっている全ての君へ

誰にでもできることを、誰もやらないところまで、やり続ける。

— それが「自分にしかできないこと」になる。

QUESTION

もし、こう言われたら？

剣道部に入ったばかりの1年生の君が、初日にいきなり先輩から「**自分にしかできない技を見せて**」と言われたとしよう。どうする？

「当然、困るよね。

どんな達人だって、最初は「**誰でもできること**」から始まる。
素振り、礼儀作法、道具の手入れ……全部、教われれば誰でもできることだ。」

POINT

「個性」はスタート地点にあるんじゃない。話はそこから始まる。

NOT ONLY KENDO

これは剣道だけの話じゃない

剣道の場合

最初にやるのは…

- ・ 素振り
- ・ 礼儀作法
- ・ 道具の手入れ

全部、教われれば誰でもできること。

勉強の場合

最初にやるのは…

- ・ 教わった解き方をその通りに
- ・ 漢字や英単語を地道に覚える
- ・ 基礎問題を繰り返す

これも、誰でもできることばかり。

「自分にしか出せない答案」「オリジナルの剣」——そんなものは、**後から**生まれてくるものなんだ。

MISUNDERSTANDING

個性は「探すもの」じゃない

「個性を出したい」「オリジナルが欲しい」——そう思ったとき、
多く人は「誰もやっていないこと」を探そうとする。でも、それでは見つからない。

× よくある考え方

誰もやっていない、
珍しいことを探そう。
変わったことをすれば、
個性が出るはずだ。

○ 本当はこう

他の人と同じことを
しようとしているのに、
どうしても「にじみ出てくる」
ものこそ、個性。

個性とは、他の人と全く同じことをしようとしているのに、どうしても出てきてしまうもの。

EXAMPLE

友達の歩き方を、思い浮かべてみよう

後ろ姿を見ただけで、「あ、あいつだ」って分かること——あるよね。
歩くなんて誰にでもできる。なのに、**みんな歩き方が違う。**

本人は別に「変わった歩き方をしよう」と思っていない。
ただ普通に歩いているだけ。

それでも、**その人らしさは、にじみ出てしまう。**

個性は「探す」ものではなく、「にじみ出る」もの。

TRUTH 1

誰でもできることこそ、 差が出る

◆ 同じ素振りを、10人がしたら？

教わる動きは全く同じ。でも、出来上がりは10人とも違う。
腰の入り方、竹刀の振り抜き、止まり方——そこに差が出る。

誰でもできる仕事こそ、**誰がやるかで一番、差が出る。**

HOW THE BEST THINK

一流の剣士は、こう考える

「素振りや礼法など、誰でもできることを、誰にもできないレベルまでやりきる人がいる。その差のことを、『その人にしかできないこと』と呼ぶんだ。」

剣道の場合

型が体に染み込むまで

剣道をやったことがない人でも、「型」を教われば誰でも出来るようになる。でも、その動きが自然に出るまで繰り返した人だけ「自分にしか出せない剣」を持つ。

勉強の場合

解き方が「考え方」になるまで

初めて見る問題も、解き方を教えてもらえば誰でも解けるようになる。でも、なぜそう解くか・どこで間違いやすいかまで考え抜いた人だけ、本番で力を出せる答案が書ける。

TRUTH 2

それは「損」じゃない、 むしろ「得」だ。

ここで、こう思うかもしれない。

「誰にでもできることをそこまでやるなんて、損じゃないの？」
—— いや、逆だ。それこそが、得なんだ。

もし「誰もやらない難しいこと」を狙うなら

- ・最初から大変な労力
- ・特別な才能や運も必要
- ・ほとんどの人は途中で挫折

「誰でもできることを、深く」なら

- ・出発点はみんな同じ
- ・特別な才能はいらない
- ・続ければ、誰も行かない場所へ

PERSPECTIVE

同じ材料で、誰も到達していない場所まで行ける。むしろ、お得な話だ。

THREE STEPS

流れで整理してみよう

ここまでの話を、3つのステップにまとめると――

STEP 1

誰でもできることを
ちゃんとやる

素振り・礼法・道具の手入れ
基礎問題・単語・漢字

STEP 2

誰もやらないところまで
やり続ける

体に染み込むまで繰り返す
当たり前として沈むまで

STEP 3

自分にしかできないものが
にじみ出す

それが「個性」
「自分の剣」「自分の答案」

SUMMARY

一流とは、誰でもできることを、誰もやらないところまでやり続ける人のこと。

FOR TODAY

明日の稽古から、 明日の机の前から

01

「これくらいでいいや」と思った瞬間に、もう一回

素振り、音読、計算——そこで止めるか、もう一回やるか。差はその一回の積み重ね。

02

「教わった通り」を、体が覚えるまで

型通りを徹底する人こそ、後で型を破れる。最初から自己流は、自己流のまま終わる。

03

地味な作業ほど、丁寧に

道具の手入れ、ノート of 整理、見直し。誰も見ていないことほど、君の差がにじむ場所。

04

「個性を出そう」と力まない

個性は、後ろから歩く姿を見られたときに自然と分かるもの。いま目の前のことを、ちゃんとやるだけ。

CLOSING MESSAGE



誰にでもできることを、
誰もやらないところまで、
やり続ける。

— それが、君だけの剣になる。君だけの未来になる。 —

ONE MORE THING

最後に、君に覚えておいてほしいこと

- 01 個性は、探すものじゃない**
他の人と同じことをしていても、にじみ出てくるもの。だから安心していい。
- 02 差がつくのは、簡単なこと**
誰でもできることほど、誰がやったかが一番はっきり分かる。だからそこに力を注ぐ。
- 03 それは「損」じゃなく「得」**
同じ材料で、誰も行かない場所まで行ける。これほどコスパの良い努力はない。

誰でもできることを、誰もやらないところまで。 — 君の今日の素振り、明日の問題集、その一つひとつから始まる。